

創りながら学びあう

：教職協働による 「学生向けRDM学習教材」の開発

千葉大学 アカデミック・リンク・センター（ALC）
リサーチ・コモンズ推進部門
特任准教授 國本千裕

①

つくる

➤ “研究者の
データリテラシーを高める”

➤ 望ましいやり方とは？
(デザインの始点)

なぜ「学生向け」？

1. ALC／千葉大学附属図書館のミッション
学部生・大学院生への**教育・学習支援**
2. だれに、いつ【高めて】もらうのが効果的？
研究者の卵？ はじめの一步？
3. **【やってきたこと】と【今できること】**
 - 学習支援&教材作成支援の実績
 - 他部局との連携（全学教育センター・統合情報センター・研究推進部）
 - スタッフの特技（！）

**ギャップを埋める
（つなぐ）役割！**

学生向けデータリテラシー（RDM基礎）教材

教材の特徴

研究リテラシー
に
データリテラシー
を埋め込む

対面講座
(人的支援)
セットのプログラム

ストーリー&キャラクタ
【似た文脈&事例】
を通じて学ぶ

WEB + Moodle

①トピック型
学びたいことが
分かる人



研究を計画してみよう！

②ストーリー型
何を学ばよいい？
分からない人



課題
発生！

メニューガイド
(活用法・相談窓口・資源案内)
キャラクタ選択&確認テスト

データ消えちゃった！
...とならないために
(データ保存講座)

データ分析
のためのツール活用

研究成果が
一目でわかる！
(データ可視化)

結果を論文にしよう！
(論文執筆法)

論文を多くの人に
読んでもらおう！
(引用・データ参照／OA出版)

研究で
コラボするには？
(データ共有術)

研究に使えるかも！？
世界の無料データ
活用術！

研究成果を
次の世代へ！
(データアーカイブ)

なぜ 研究リテラシー + データリテラシー？

1. 学習の動機

「データリテラシー “だけ” をぜひ学ぼう！」
...という研究者（若手/院生）はどれだけいる？

2. 学習の効果

研究(室)活動・行動に「沿わせる」
身近に感じる＋ひきつけて学ぶ（Context based）
⇒ 【研究リテラシーを学ぶ】 中に埋め込む！

②

まなび
あう

➤ “研究者を支援する
専門職の養成”？

➤ どうやって実現するか？
(その工夫 & 試行錯誤)

役割と分担（試作時の体制）

情報・データリテラシー

【ベテラン職員₂】 【若手職員₂】

2人1組で分担

1. 自分で調べる＋まなぶ

例) JPCOAR教材 / 海外学習ツール
学会・学内のガイドetc.

2. 人に尋ねる

例) 詳しい同僚や教員に聞くetc.

3. 関連セミナーに参加する

例) JOSS2018/出版社セミナーetc.

Contents Team

研究リテラシー

①【教員₃】

②【RLA＋学習相談員(院生)】

①は単独、②はチーム

1. 教員：専門＋教育・研究の経験
2. RLA：専門＋学習支援の経験
3. 院生：当事者＋支援経験

Implementation Team

Eラーニング実装

【教員₁】 【若手職員₁】

(助言：教員₂＋中堅職員₁)

1. 教員：専門＋教育・研究経験
2. 職員：実務経験＋自分で学ぶ

動画作成etc.

(コンテンツ制作室)

作成プロセス

1. 教員・学生へのインタビュー（ニーズ&文脈&事例）
2. コンテンツ担当が内容と問題づくり
3. 会議でチェック（すりあわせ）
4. 実装担当へ渡す

学生は、
スマホで見
れないと...
無理っス。
あと、
ぶっちゃけ
文字多いと
ダメっス。



「まなびあい」（教職協働）

1. 教員・学生インタビュー

分野外の研究内容や文脈は、教員も「知らない」

2. 教材作成の過程

➤ 職員 to 教員

「研究経験がないので××が不明…」 「ゼミ指導時にはどうするの？」

➤ 教員 to 職員

「××について、学内に関連するサービスや資源はある？」

➤ 双方

「この説明だと学生に伝わらないのでは？」（助言する／される）

「この資料/人が使えるかも」（例：授業資料／レファレンスツール）

3. 議論（どうあるのが望ましい？うまく進む？ ⇒ 理想形を創る）

⇒ 文脈も、経験（実践知）も、資源も、
説明の仕方も学んで【ベストな答え】を探る

若手研究者を

育てて
育つ

自分たちも
(支援者として)

➤ 「今、完璧な取組み」でなくてよい

➤ 望ましいやり方とは？

➤ 組織ごとに異なる！

(理想は高く、されど)

“未来に備えて”

できることから！

- ①ディレクター（特化）
- ②ストーリー班（事例分析）
- ③ユニット班（内容・問題）

③

課題と改善

・得意・不得意・多忙というバリア

⇒システムや体制で工夫

- ノウハウをマニュアル化
- 役割分担を変える

・理想・計画どおり進まない

⇒やり方を変える（でもやる）

『（事例や文脈の組み込みが難しい...）
事例の収集分析に【特化】したチーム編成を！』

⇒優先度を変える（でもあきらめない）

『効果の高い②から着手、①と③は来年にまわそう！』

- ① 気長に何ができるか？（長期で）
- ② いま、何ができるか！（短期で）...考える

*Never put off till tomorrow
what you can do today !*